

災害への備え、被災時の地域協力を考える内郷の会

あんしん内郷

第 5 号 (2024 年 2 月)

発行: 内郷地区社会福祉協議会

Tel/Fax: 043-486-5690

eメール: uts@catv296.ne.jp

Instagram: uchigou_bousai



あんしん内郷
Instagram

今、内郷の安心を脅かす一番の存在は「イノシシ」。
薄暗くなってからのジョギング、夜明け前の散歩などで出会わないようご注意を。
かわいい「ウリ坊」の後ろには、親イノシシがいることをお忘れなく！！



レオ君



麦ちゃん



清宮さん



「麦ちゃん、この間散歩していたら竹林の中でガサガサって音が聞こえたけどなんだろう？」



「それはきっとイノシシだね。」



「本当に内郷地区にイノシシっているの？」



「いっぱいいるよ！多分 100 頭以上はいるね！」



「そんなに！」

「俺達猫は木に登って逃げられるけど、出会ったら結構あぶないよ、イノシシって！」



「今日はレオに会わせたい人がいるんだ。イノシシについてとても詳しい、うちごう保全会の会長さん・清宮正裕さんだよ。」



「こんにちは、清宮さん。今日はイノシシについて色々教えてください。よろしくお願いします。」

清宮「はい、麦ちゃん レオ君 こんにちは。清宮です、よろしく！ うちごう保全会では、地域の環境維持に努めています。田畑の管理や、山林の草刈り、そして近年急増しているイノシシの駆除が主な活動だよ。」



「あの～イノシシって凶暴ですか？」

清宮「本当は凄く臆病な動物なんだ。でも、運動能力はとても高いし、頭もいい。だから怒らせると凄く怖い動物だよ。ウリ坊と言う赤ちゃんがいる時のママイノシシも怖い。一番怖いのは我々の仕掛けた罠にかかった時のイノシシだね。興奮もしているから、人間を見たら、突っ込んでくる。箱型の罠は金属の棒で出来ているけど、中で暴れて棒が曲がってしまう事もあるくらいだよ！」



「あっ！見たことがあります。山に罠に注意の看板、ありました。罠ってどのくらいあるのですか？」



清宮「内郷地区で 30～50 個だね。そして罾は狩猟免許を持っている者が仕掛けて、責任を持って管理しています。毎日巡回して監視しなければならないんだよ。」



「毎日ですか！それは大変ですね。実際、罾にかかるイノシシは何頭くらいですか？」



清宮「去年の 4 月から今年の 1 月までに、市内全体で 70 頭は捕まえたよ。でも全然減らないんだ。特に内郷地区の北側の大佐倉、飯田、萩山、土浮には相当いるね。」

「あと飯田から佐倉カントリー側の宮前の脇にも獣道(けものみち)があるから注意しているよ。」



「減らないんですね。それで僕達は、どんな注意をしたらいいですか？」

清宮「まずは、罾の看板を見たら決して近づかない事。もし罾にかかったイノシシがいたら本当に危ないからね。罾の危なさは大人の足の大きさならかからないけど、幼稚園児くらい小さな足だとかかかってしまうこと。あとは、保全会のメンバーが沢山いる時は、イノシシ駆除をしている時だから近づかないようにして欲しいな。」



「僕も足元によく注意して散歩するようにします。清宮さん、今日は貴重なお話ありがとうございました。これからも内郷地区の保全活動、よろしくお願いします。」

清宮「はい、うちごうの安心のために頑張ります。」



・・・帰り道のレオと麦・・・

「ね～麦ちゃん、でもイノシシってかわいそうだね。」

「うん、かわいそうだね。けど、田畑を荒らしている以上、駆除は仕方ないよ。収穫前の稲田を荒らしたり、畑の種芋を食べたりしているから、被害額も相当なものだよ。」

「そうだよね。でも、なんで昔はいなかったイノシシが内郷にいるんだろうね？」

「それはさあ、俺と一緒にだよ・・・」

「えっ麦ちゃん、どう言うこと？」

「今から 40 年くらい前に、印旛沼あたりでイノシシを捨てた奴がいる。それが繁殖して増えたんだ。その後、都市開発が進んで住みにくくなったイノシシが、内郷に移住して来たんだよ。」

「ということは、麦ちゃんも捨てられたの？」

「・・・結局のところ、原因は人間の身勝手さってことだよ。」